

日本における切り花トレンドの変遷

1960年代

洋花ブームの黎明期
アメリカンデザインの踏襲

高度経済成長の時代

1960 (昭35) 年切り花生産額73億円弱
(現在の3-4%)
1970 (昭45) 年切り花生産額300億円

- 素材
キク
カーネーション
バラ
チューリップ
ユリなど

生活者
マインドの
波

【直線期】
合理性重視
競争激化
画一的量産
統一感
自然凌駕
宇宙・人工物志向
幾何学的、直線的
デザイン傾向

【曲線期】
人間性尊重
スローライフ
ドラマティック
多様性・個性重視
自然環境重視
日常生活志向
デコラティブ、曲線的
デザイン傾向

1970-1980年代

日本人のオリジナリティを融合した
発展的デザイン

“一億総中流”時代

1980 (昭55) 年切り花生産額1,565億円
1980-1985年洋花生産増加

ラインフラワー、フィラフラワーの台頭

- 特徴的な素材
カスミソウ、スターチス、カラー、
グラジオラス、クジャクソウ、
その他のラインフラワー、フィラフラワー
大輪系はキク、バラ、カーネーション、
スカシユリ、カトレアなど

1971年



- デザインキーワード
規則的、幾何学的配置、
シンメトリカル

縦ラインが強調された
横から見るデザイン
空間をフィラフラワーで埋める



1985年



スピード、画一化の時代
バブル景気

1990 (平2) 年切り花生産額2,500億円
1985-1990年洋花文化開花期
1985-1995年輸入切り花急増

洋花文化開花期

- 特徴的な素材
グロリオサ、スイートピー、アルスト
ロメリア、カラー
ジェルミニ系中小輪ガーベラ
オリエンタルユリ
トルコギキョウなど
輸入切り花の多様化

- デザインの変化
幾何学的形状、シンメトリーを基
本に、動きを加えたデザイン

グルーピングデザインも取り入れ始
め、ヨーロッパデザインの導入期
となる

1990-2010年代初頭

本格的なヨーロッパデザインの流入
洋花文化の開花期

癒し、環境意識の時代 景気低迷

2000 (平12) 年切り花生産額2,800億円
2010 (平22) 年切り花生産額2,200億円

大輪、八重、マスフラワーの台頭

- 特徴的な素材
面を埋める大輪アイテム
立体的、デコラティブなもの
ダリア、カップ咲きのバラ
大輪ランキユラス
八重フリンジ系トルコギキョウ
アジサイ、シャクヤクなど
葉物の多様化
ニュアンスカラー

2005-08年頃
ダリア黒蝶が火付け役と
なり、赤黒ブーム到来

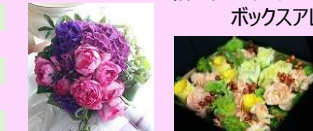
マーケットを席卷したダリア黒蝶
八重フリンジのトルコギキョウ

八重のオリエンタルユリ

大輪ランキユラス

- デザインキーワード
・花どうしが隣接しあうビダマイヤースタイル、
ラウンドブーケ、ボックスブーケ
・上から見るデザイン
・葉物や蔓物で個性・曲線を強調

ラウンドブーケ 箱に花をギュッと集めた
ボックスアレンジ



2013年ころ～

ヨーロッパデザインにオリジナリティを
融合した発展的デザイン

力強さを求める時代に転換
景気は緩やかな回復基調に

草花、中小輪、野趣溢れる雰囲気
アイテムの台頭

- 特徴的な素材
・ナズナ、スモークグラス、マトリ
カリアなどの野趣溢れる草花
・トルコギキョウ、ランキユラス
など花卉が減少し、中小輪に
・たおやかなラインを形成する
アイテム
・カスミソウ再注目

生花店で定番化したナズナ

- デザイン
・シャンベトル
・自然味溢れる雰囲気
・エアリーなデザイン
・草花多用
・中小輪系の組み合わせ

注目される
シャンベトル カスミソウだけのデザイン



草花を多用した
野趣溢れるデザイン

2013年